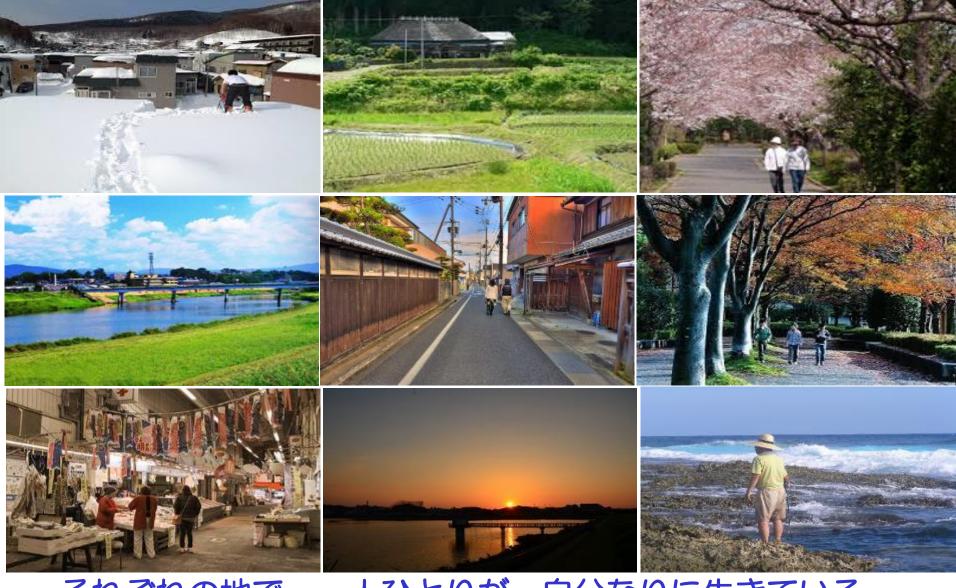
認知症介護研究・研修東京センター 研究部長 永田 久美子 knagata@itsu-doko.net

認知症の人をめぐるパラダイムシフト ~超高齢社会の活路を拓く~



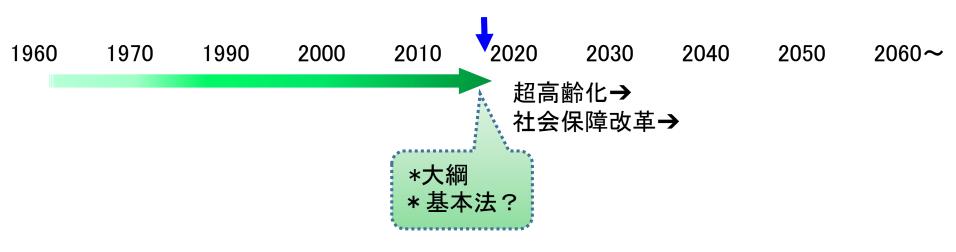


それぞれの地で、一人ひとりが、自分なりに生きている。 いくつになっても、認知症になっても、

地域の中で、尊厳と希望をもって、生ききられる地域共生社会を

どこからきて、どこに行くのか・・・





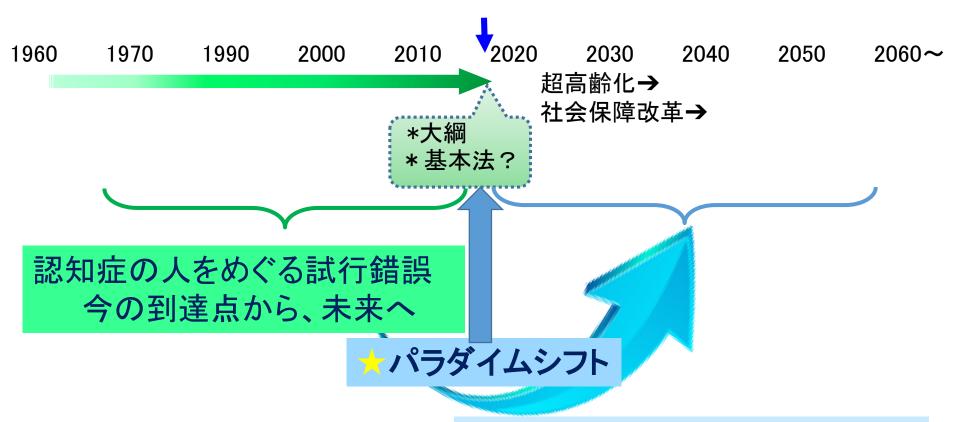
人が認知症になってから・・・

(私たちが) **どう生きていけるか**。

今、分水嶺の時期

どこからきて、どこに行くのか・・・





*増大する認知症の人が、 社会の負担の存在ではなく 超高齢社会の活力を生み出す 社会のかけがいのない存在に。

認知症の人をめぐる文化・生きる姿の歴史

*長い時間をかけて国や自治体、関係者が、これまで試行錯誤を 積み重ねてきての今。

*本人を取巻く地域社会の文化(認知症観・関わり・支援・

環境・施策等)のあり方で、本人の生きる姿が

大きく変化してきている。

*現在は、これまでの歴史・教訓をもとに

希望のある未来を切り拓くための

重要なエポック。



固別生活

• 生活重視

- 少人数で

家庭的環境

2000~

地域生活重視

- 地域密着の 支援

共に

予防は

そのための

手段のひと1

尊厳と希望をもって 地域の中で 自分らしく

生ききられる

地域共生

*大綱 *基本法?

2019~

2015

望のある協働 本人が自分らしく 希望をもって生きいく

ための支えあい

*本人視点の重視

*意思決定支援

→新オレンジプラン

1970~ 1960~ 复闭管理

1980~

問題対処

- 集団療法

↑高齢者社会研究会報告 「2015年の高齢者介護」 尊厳を支えるケアの確立 (中村老健局長)

2010

支援

多資源協働

専門職・住民・

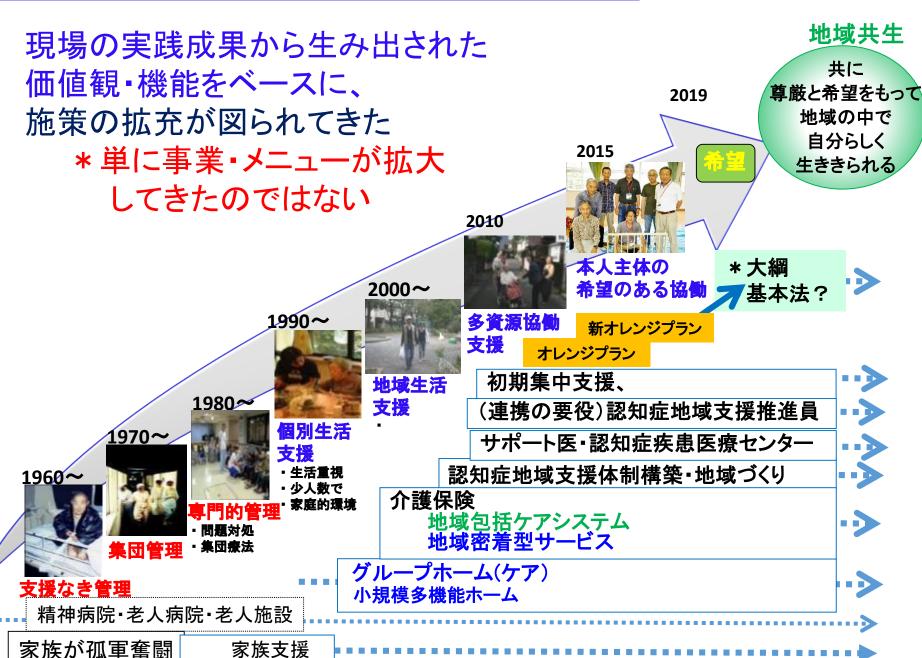
企業等による

多資源協働の

地域支援

- →魔の3ロック
- ・拘束/閉じ込め
- 言葉での制止
- ・薬による過鎮静

認知症の人をめぐる社会・生きる姿の歴史



医療・福祉分野のみでなく、国全体としてより総合的に

認知症施策推進大綱 令和元年6月18日

〇認知症になっても<u>希望</u>をもって<u>日常生活を過ごせる</u>社会を目指す。

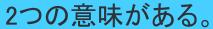
本人が自分の力を活かして、日々よりよく暮らす

○「共生」と「予防」を車の両輪として施策を推進

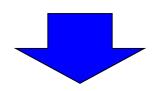
「認知症にならない」という意味でない。 🛑 要注意!

- *「認知症になるのを遅らせる」 みんなが「備える」
- *「なっても進行を緩やかに」

認知症から目を背けない



- ★①認知症の人が、尊厳と希望を持って認知症とともに生きる(自分ごと) (社会全体で)
 - ②認知症があってもなくても同じ社会でともに生きる



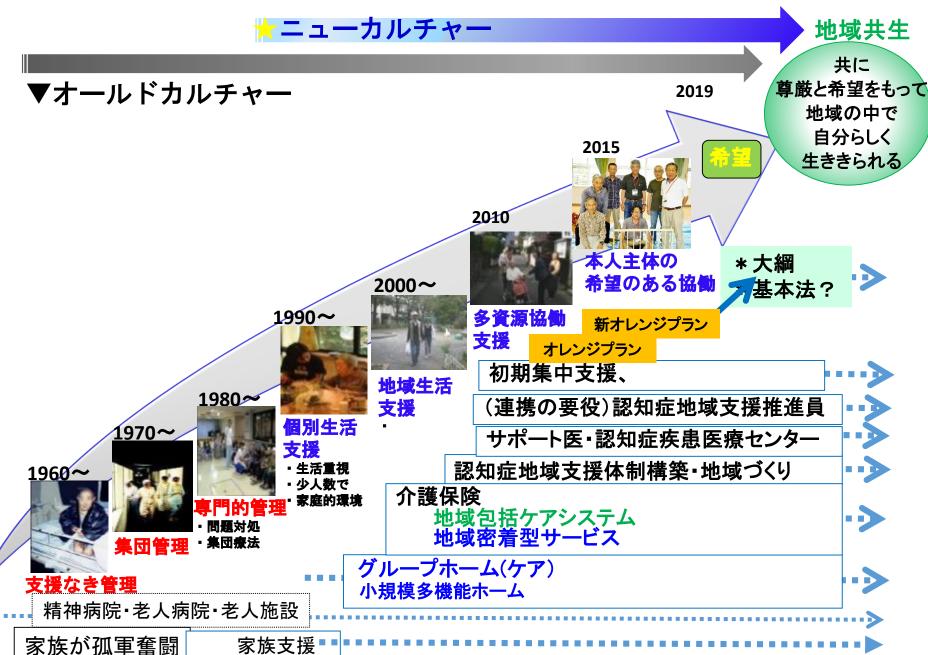
「5つの柱」

- 1. 普及啓発・本人発信支援
- 2. 予防
- 3. 医療・ケア・介護サービス・介護者への支援
- 4. <u>認知症バリアフリー</u>の推進、 若年性認知症の人への支援、<u>社会参加支援</u>
- 5. 研究開発・産業促進・国際展開

★専門職はもとより すべての人たちが

認知症の人の 視点にたって、 認知症の人や その家族の 意見を踏まえて

重要なのは認知症の人をめぐる文化(価値観・機能等)の変革 ★ニューカルチャー 地域共生

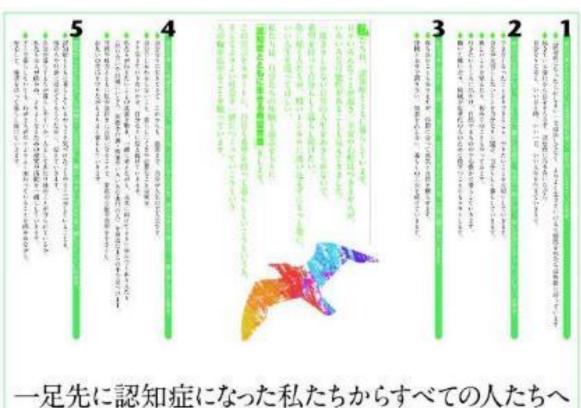


本人自身が、次に続く本人、そしてすべての人に 希望を伝える時代になってきました。



認知症とともに生きる希望宣言」

- ★本人たちが声を寄せ合い宣言(2019.11)
- ★認知症の私たちだからこそできることがある
- ★大綱 ⇒ 全ての市町村でこの宣言の普及を



私たちは、認知症とともに暮らしています。

日々いろんなことが起き、不安や心配はつきませんが、いろいろな可能性があることも見えてきました。

一度きりしかない自分の人生をあきらめないで、希望を持って自分らしく暮らし続けたい。

次に続く人たちが、暗いトンネルに迷い込まずにもっと楽に、いい人生を送ってほしい。

私たちは、自分たちの体験と意志をもとに「認知症とともに生きる希望宣言」をします。

この宣言をスタートに、自分も希望を持って暮らしていこうという人、 そしてより良い社会を一緒につくっていこうという人の輪が 広がることを願っています。

「認知症とともに生きる希望宣言」



- 1. 自分自身がとらわれている常識の殻を破り、前を向いて生きていきます。
- 2. 自分の力を活かして、大切にしたい暮らしを続け、社会の一員として、 楽しみながらチャレンジしていきます。
- 3. 私たち本人同士が、出会い、つながり、生きる力をわき立たせ、 元気に暮らしていきます。
- 4. 自分の思いや希望を伝えながら、味方になってくれる人たちを、 身近なまちで見つけ、一緒に歩んでいきます。
- 認知症とともに生きている体験や工夫を活かし、暮らしやすい わがまちを一緒につくっていきます。

診断を受けた本人が主になって活動する全国組織「日本認知症本人ワーキンググループ」 のホームページでご覧いただけます。(ダウンロード/プリントすることもできます) http://jdwg.org/

参考

「希望宣言」を地域や職域で伝え、語り合い 「希望をもって共に生きる」地域づくりが広がっています

*希望:特殊なことでなく、一人ひとり自分らしく生きて上での (ささやかな)望み・願い



日本認知症本人 ワーキンググループ http://jdwg.org/



●専門職が本人に 本人が希望官言に 見入る。 「わたしも、こう 言いたかったあし



▶展示、配布、掲示 相談窓口に常設、 来訪者に手渡し。 壁に拡大コピーを 揭示。



●本人から本人へ 本人が不安で いっぱいの人の 相談役になり、 希望を語り合う。



●本人が、地域で 身近な友人や地域 の人たちと希望を 語りあう。



▶本人が企業へ できることがある、 会社や社会に貢献 したい思いを伝え る。



講座、講演会で 配布し、本人の思 い、わがまちで 共に生きることを 話し合う。



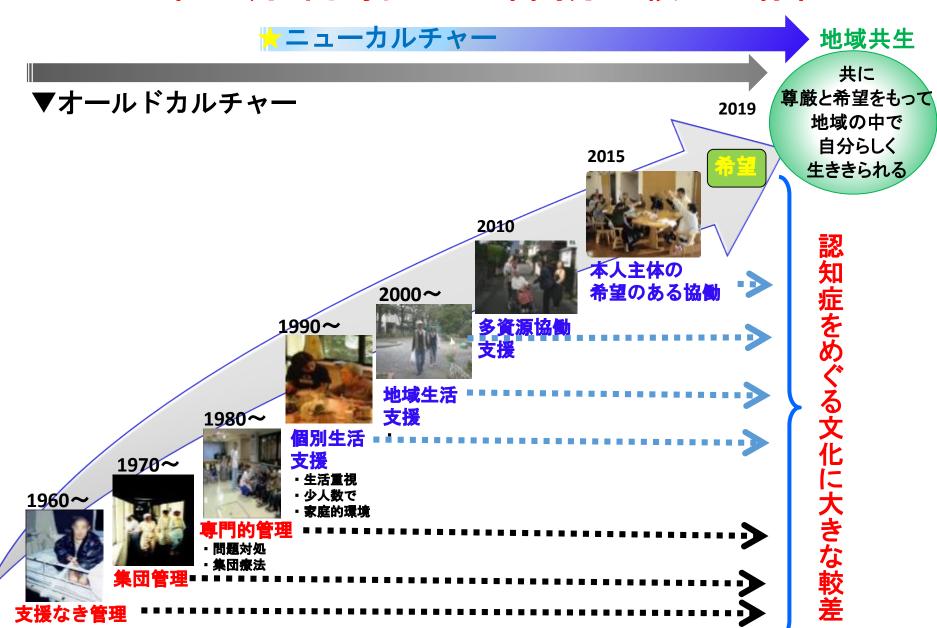
医療・介護の研修 日常を振り返り、改 善したいこと、共に できることを具体的 に話し合う。



本人と条例作り 認知症の人とともに 築く総活躍の町」 条例(御坊市)

条例作りに活かす

2019年10月:同時代に60年間分の較差が存在



自分が住む自治体の地域の文化、自分の職域の組織文化は?

★ パラダイムシフト

オールドカルチャー

<他者視点、問題重視、地域から疎外、絶望>

- ①認知症は他人事、対象者
- ②本人はわからない、できない
- 3自分らしさがなくなる
- ④本人は問題をおこす人、社会の負荷
- ⑤本人の声を聴かない、本人言えない 周囲が決めて、本人を枠にはめる
- ⑥地域から切り離す、茫然とした日々 支えられる一方
- **⑦あきらめ、孤立、暗く、絶望的**

★ニューカルチャー

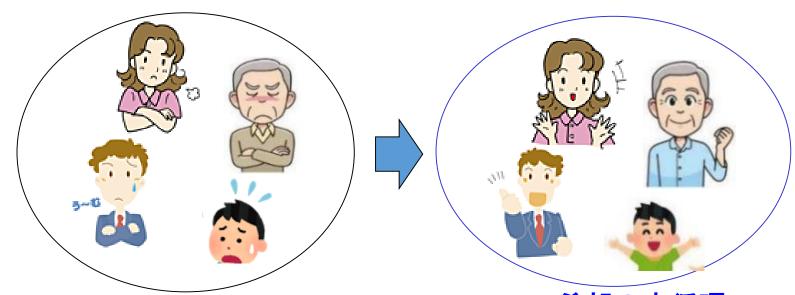
<本人視点、可能性重視、共生、希望>

- ①認知症は自分事、本人が主体者、共創
- ②本人はわかること、できることがある
- ③自分らしさが(最期まで)ある、保つt
- ④本人は認知症バリアで苦しんでいる人、 バリアが問題・社会負荷を増幅している
- ⑤本人の声を聴く、本人が言える(支援) 本人が決め、自分らしく暮らす(支援) *人としてあたりまえのこと(権利)
- ⑥地域とつながり共生、心豊かな日々 地域の大事な一員として活躍
- ⑥あきらめず、楽しく、希望をもって

これ抜きでは 予算・人手・技術を 投入しても 幸せな超高齢社会を 無けない

一人ひとりが、そし社会全体が パ ラ ダ イ ム シ フ ト を !

絶望の悪循環を断ち切り、希望の良循環を社会全体で創る



絶望の悪循環

他者視点、問題重視、社会から疎外 暗く、楽しみなく、ピリピリ

- ⇒お互い消耗、対立、孤立、
- ⇒状態や生活悪化、互いの力が削がれる
- ⇒互いの負担・苦悩増加、世代間対立
- ⇒若い世代含め社会全体が絶望的

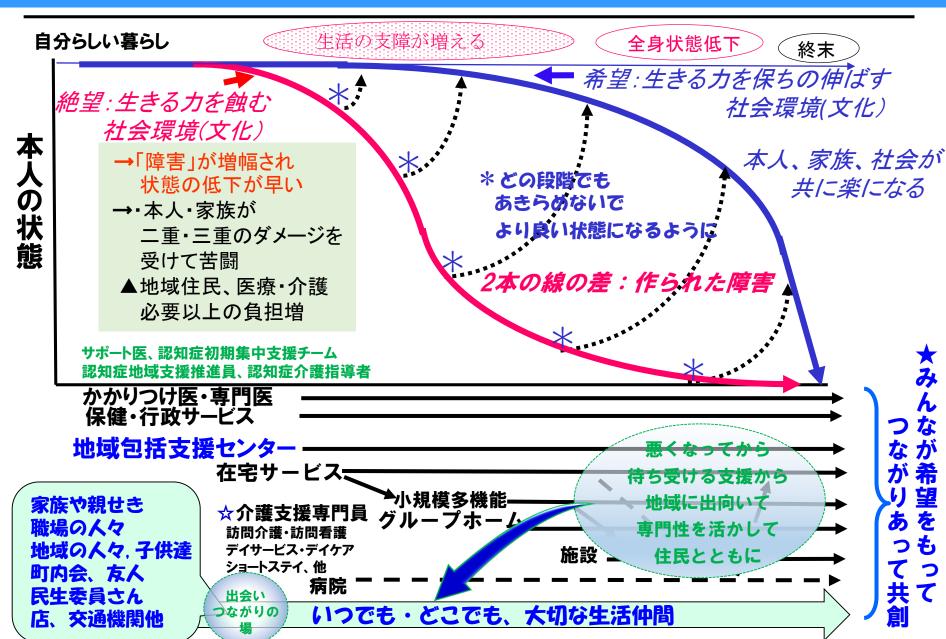
希望の良循環

本人視点、可能性重視、共生明るく、楽しく、伸びやかに

- ⇒お互い伸び伸び、仲良く、つながり
- ⇒状態安定、互いの力が伸びる
- ⇒互いが楽に、負荷最小化、世代融合
- ⇒若い世代含め社会全体が希望持てる

現状:「認知症で大変」とみなされ、絶望の悪循環に陥っている人が多数

絶望か、希望か:社会のあり方で、晩年の人生行路が大きく左右される 個人はもとより、社会全体の今後を左右する



一人ひとり、認知症になっても、自分の人生の途上自分なりの暮らし・時間がある、思いや力が(最期まで)ある



- * 若い人も、年配の人も、いくつであっても。
- *認知症の初期の人はもちろん、認知症が深まった人たちも!
- *本人たちと、希望のある生活・地域作りが全国で進行中

本人の声(思い)、本人なりの希望を聴きながら ささやかな願い、望み(楽しみ、やりたいこと、など) 地域を舞台に、楽しく、互いに心豊かな日々を



ちょっと一緒に、 好物の一品を



ちょっと一緒に、 生け花を



気晴らしがてら買い物に



ちょっと一緒に、 音楽を



ちょっと一緒に、 絵を眺めて



ちょっと一緒に 孫に手紙を

本人の声(思い)、本人なりの希望を聴きながら ささやかな願い、望み(楽しみ、やりたいこと、など) 地域を舞台に、楽しく、互いに心豊かな日々を



ちょっと一緒に将棋でも



ちょっと一緒に、新聞を



ちょっといっしょに、図書館に



ちょっと一緒に、畑を見に



ちょっと一緒に、風呂に



ちょっと一緒に、飲みに

「働きたい」 ⇒社会参加 * 技の継承や人手としても貴重 ★働ける。認知症があっても、支えられる一方で決してない。 楽しみ、自信を高めながら、地域の一員として活躍!



毎週、畑仕事。元気が蘇る 子供も、医師も一緒に。



好きな手仕事を地域の 人たちや専門職と



保育園の物品の作り手として 大活躍。自然な世代交流



高齢化した町会の助っ人 防犯パトロール 子供の登下校の見守り役



軽作業の仕事で活躍 企業にとっても 貴重な人手



本人が病院で働く 診断後で不安一杯の 本人の相談役(給与あり)

本人が活き活き⇔家族も活き活き⇔地域も活き活き(良循環)

いくつになっても、認知症になっても 人は、すごい力を秘めている。 自分らしく生きていける可能性は、未知数。



好きなこと・趣味



スポーツ

* 全国認知症ソフトボール大会 (富士宮市)



語り部

体験と思い、希望を 地域社会に伝える

* 認知症になった 自分だからこそできる 新たな役割

認知症が進んだり、施設で暮らす人も

地域を舞台に希望をもって暮らせる社会環境(文化)が生まれると「これぞ自分という姿」で日々を重ね、生ききることができる。



商店街の常連客として買物 地域の商店の大事なお客さん。 (超高齢化する地域の重要な客) 馴染みの店で 自分が好きなものを 自分が選ぶ。



鉄道会社が外出支援 安心・安全に交通機関 を利用できるように 社員が日常的に支援。 あきらめずに 行きたい所に外出を。

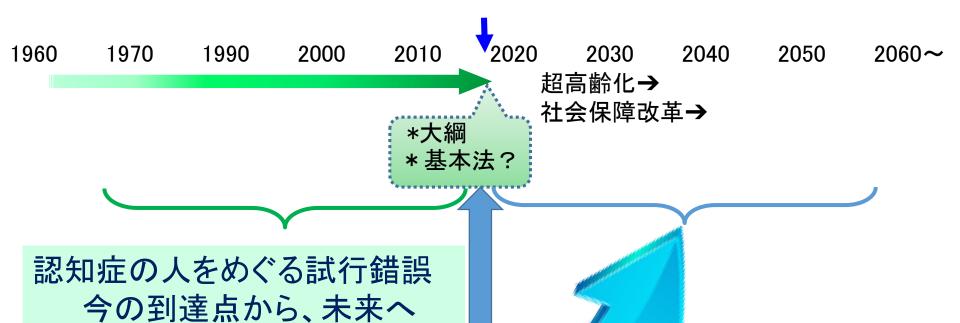


地域の子供たちが看取り 家族がいない高齢者が 増えている。 親が働き、放課後一人の 子どもが増えている 施設で夕方を一緒に過ごし 最期のときも一緒に。 生き抜いて死ぬ姿を、自然に。

本人、地域の人、子どもたち、企業、ケア関係者が一緒に、 共によりよく生きる可能性にチャレンジ中。

ともにアクションを





- ★パラダイムシフト
 - *国が、自治体が、
 - *医療・介護・福祉の専門機関が
 - *あらゆる分野の企業、メディアが
 - *一人ひとりが、育ちゆく子供たちが

絶望の人から、地域社会の希望を創りだす人に









認知症になっても、人としてあたりまえのこと(権利)が大切にされ、 ともに未来を創り出していく社会を

参考「本人にとってのよりよい暮らしガイド」 通称:本人ガイド

本人が読め、元気になる情報を:前を向いて歩いていくために



- * 一足先に認知症になった人たちの声、体験と工夫をまとめた冊子。
- * 絶望なんてしてるのはもったいない。
- *まだまだ続く自分の人生の
 - 一日一日を楽しもう!
- ★医療機関、包括、役場、薬局等で 広く配布を。
- ★地元版の本人ガイドを作る自治体も。
- *日本認知症本人ワーキンググループJDWGのホームページから無料で入手できます。
- * 有償配布もしています。 guide@jdwg.org